

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	26	36	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	1	5	ヘルパンギーナ	195	132
咽頭結膜熱	21	37	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	7	8
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	82	急性出血性結膜炎	0	1
感染性胃腸炎	291	268	流行性角結膜炎(はやり目)	8	9
水痘	82	68	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	537	403	無菌性髄膜炎	0	1
伝染性紅斑(りんご病)	0	3	マイコプラズマ肺炎	3	3
突発性発しん	42	63	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 手足口病
- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ

- 手足口病は、報告数 537 件(前週報告数 403 件)と増加。地区別では、水俣、菊池、熊本市に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の222件を最多に主に6歳以下からの報告です。
- 感染性胃腸炎は、報告数 291 件(前週報告数 268 件)と増加。地区別では、山鹿、菊池、有明に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の43件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- ヘルパンギーナは、報告数、195 件(前週報告数 132 件)と増加。地区別では、八代、菊池、天草に多く報告がみられます。年齢別では 1歳の62件を最多に主に7歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	7		8	24	58	26	251		12		43			8				
山鹿保健所			1		37	8	23				7		*	*				
菊池保健所	1	1	3	25	61	19	103		7		45	2						
阿蘇保健所	1				1		1						*	*				
御船保健所	1				10	1					2		*	*				
八代保健所	4			4	15		4		5		37							
水俣保健所				2	6		47		1		3		*	*				
人吉保健所			1	2	20	11	18		6		10	1	*	*				
有明保健所			2	1	52	4	35		6		16	1	*	*			1	
宇城保健所	11		5	8	24	7	31		4		15	1	*	*				
天草保健所	1		1	12	7	6	24		1		17	2					2	
計	26	1	21	78	291	82	537	0	42	0	195	7	0	8	0	0	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	26					1		1		1	1		5	13		3	1					
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	1		1																			
咽頭結膜熱	21		1	7		6	2	1	1		2	1										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78				2	1	9	15	18	8	5	4	12		4							
感染性胃腸炎	291	2	40	43	30	18	25	24	23	18	5	6	32	2	23							
水痘	82	1	9	20	20	12	7	7	2	2	2											
手足口病	537	7	72	222	130	57	17	14	7	2	1	2		5								
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	42	1	18	21	2																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	195	3	24	62	50	17	20	8	6	4			1									
流行性耳下腺炎	7			1	2	1		1	1				1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	8															2	3	3				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	3		1													1	1					
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ヘルパンギーナ：菊池、八代
- 手足口病：熊本市、山鹿、菊池、水俣、人吉、有明、宇城、天草

手足口病、ヘルパンギーナに引き続き注意しましょう



【手足口病、ヘルパンギーナに引き続き注意しましょう】

先週に引き続き、手足口病、ヘルパンギーナの報告数が増加しています。特に、手足口病については、先々週県全体の一定点あたりの患者報告数、国が定める警報基準値を超えましたが、今週もさらに増え、先週の約1.3倍となりました。阿蘇、御船、八代以外の地域では警報レベルを超えています。年齢別発生状況を見ると、生後6カ月から6歳にかけて多く発生しています。また、ヘルパンギーナも増加傾向にあり、県全体では警報レベルには達していませんが、菊池と八代地域では警報レベルに達しており、流行の兆しがみえています。どちらの病気にも共通して言えますが、原因となるウイルスはいくつかの型がありますので、何度もかかってしまうことも珍しくありません。そのため、予防対策は引き続き行いましょう。

【感染経路】※手足口病もヘルパンギーナも感染経路は同じです。

- ・飛まつ感染—咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します。
 - ・経口・接触感染—水疱のなかみや便に排出されたウイルスが手をついた、口や眼などの粘膜に入って感染します。
- 【予防策】
- ・手足口病やヘルパンギーナにはワクチン(予防接種)はありません。
 - ・外出後、食事の前、トイレの後などは手洗いやうがいをしましょう。
 - ・タオルを共用することは避けましょう。
 - ・おもちゃや食器などの消毒には次亜塩素酸ナトリウムが有効です。
 - ・登園・登校時期については主治医に相談しましょう。

